

平成25年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年11月14日

上場会社名 (株)プリンシパル・コーポレーション 上場取引所 大
 コード番号 3587 URL http://www.princi-baru.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)菊地 博紀
 問合せ先責任者 (役職名)取締役 (氏名)松田 高宏 (TEL)(03)3582-3190
 四半期報告書提出予定日 平成24年11月14日 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第2四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	894	4.5	276	-	211	-	212	-
24年3月期第2四半期	936	56.3	177	-	284	-	284	-

(注) 包括利益 25年3月期第2四半期 212百万円(- %) 24年3月期第2四半期 284百万円(- %)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
25年3月期第2四半期	円 銭 2 32	円 銭 -
24年3月期第2四半期	3 84	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
25年3月期第2四半期	百万円 634	百万円 53	% 8.4
24年3月期	573	476	-

(参考) 自己資本 25年3月期第2四半期 53百万円 24年3月期 476百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
24年3月期	円 銭 -	円 銭 -	円 銭 -	円 銭 0 00	円 銭 0 00
25年3月期	-	-	-	-	-
25年3月期(予想)	-	-	-	0 00	0 00

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,300	20.6	158	-	157	-	157	-	2 12

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 - 社(社名) 、除外 - 社(社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 有
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期2Q	114,159,300株	24年3月期	74,159,300株
期末自己株式数	25年3月期2Q	2,434株	24年3月期	2,399株
期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期2Q	91,437,761株	24年3月期2Q	74,156,938株

+

四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料1ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	11
(5) セグメント情報等	12
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、一部に穏やかな景気回復の兆しが見えてきたものの、欧州金融危機、中国をはじめとする新興国市場における成長の鈍化等の影響により、依然として、先行き不透明な状況が続いております。

小売業界におきましても、先行き不透明感やデフレ傾向から、消費者の節約志向は強く、経営環境は厳しい状況にあります。

このような状況の中、当第2四半期連結累計期間の連結売上高は894百万円（前年同四半期は936百万円）、営業損失は276百万円（前年同四半期は177百万円）、経常損失は211百万円（前年同四半期は284百万円）、四半期純損失は212百万円（前年同四半期は284百万円）となりました。

なお、当社グループは、全セグメントに占める「食品事業」の割合が高く、開示情報としての重要性が乏しいことから、セグメント情報の記載を省略しております。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末から61百万円増加し、634百万円となりました。これは、新株予約権の行使により現金及び預金が105百万円増加した一方で、のれんの償却が27百万円あったこと等によるものです。

当第2四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末から468百万円減少し、581百万円となりました。これは、短期借入金411百万円返済したこと等によるものです。

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末から529百万円増加し、53百万円となりました。これは、新株予約権の行使により資本金及び資本剰余金が370百万円増加したこと等によるものです。なお、当第2四半期連結会計年度末において、債務超過は解消しております。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成24年5月14日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりませんが、修正が必要と判断した場合には、速やかにお知らせいたします。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。なお、この変更により当第2四半期連結累計期間に与える影響は軽微であります。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当第2四半期連結会計期間(自平成24年7月1日至平成24年9月30日)

当社グループは、営業活動によるキャッシュ・フローが数期に亘りマイナスであり、当第2四半期連結累計期間においても276,715千円の営業損失を計上し、営業活動によるキャッシュ・フローも205,504千円のマイナスとなっております。また、運転資金及び事業規模拡大のための投資資金を外部調達によって賄う体質となっており、一部の借入金等については期限が到来し、返済を猶予いただいております。これらにより、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当該状況を解消するため、遅延している借入金等の圧縮を図り、また、当社グループの中心事業である食品事業の業績の改善に努めてまいります。更には、キャッシュ・フローを当社グループに経常的にもたらし得る事業または資産の新規取得を行うべく、候補となる事業または資産を複数検討しております。検討にあたっては、既にキャッシュ・フローを生んでいる事業または資産、または現時点ではキャッシュ・フローを生んでいないものの、確実性の高い売上・利益が見込まれる等、早期にキャッシュ・フローを生むことがほぼ確実と見込まれる事業または資産を対象としております。

これらの施策を実行するためには、外部からの資金調達が必要であり、平成24年6月27日に行使時の払込価額総額720,000千円の第3回新株予約権を発行し、すべて行使され払込が完了しました。当社は、当該資金を、主に当社グループの借入金及び各種未払債務等の支払いに充当しました。今後も、新たな資金調達を推進し、財務体質を改善した上で、食品事業の中核である食品スーパー(ハミングステージ)において品揃の拡充による売上の拡大及び利益率の改善を図るための差入保証金の積み増しや販売促進等の前向きな投資を行い、黒字体質への転換に取り組んでまいります。更に、当社グループに経常的にキャッシュ・フローをもたらす資産または事業への投資を実施して、営業キャッシュ・フローをプラスに転じさせる計画であります。

しかしながら、当社グループの事業は国内の景気、消費動向等の影響を受け、また、資金調達は外部環境要因に依存する部分も大きく、更に、新規事業については期待通りの成果が出るか否かについてはリスクを伴い、実現できない可能性があります。従って、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,656	123,942
受取手形及び売掛金	2,731	1,274
商品及び製品	34,739	35,189
原材料	1,306	951
貯蔵品	1,121	1,934
未収入金	4,648	4,103
未収消費税等	15,476	6,464
短期貸付金	26,651	21,700
その他	6,103	7,192
貸倒引当金	19,318	19,318
流動資産合計	92,116	183,434
固定資産		
有形固定資産	99,110	87,380
無形固定資産		
のれん	228,543	200,570
ソフトウェア	52,836	49,067
無形固定資産合計	281,380	249,638
投資その他の資産		
長期貸付金	23,200	21,600
長期前払費用	-	4,146
差入保証金	100,374	109,543
破産更生債権等	384,856	287,198
その他	71	71
貸倒引当金	408,056	308,798
投資その他の資産合計	100,446	113,761
固定資産合計	480,937	450,780
資産合計	573,053	634,215
負債の部		
流動負債		
買掛金	92,227	75,029
短期借入金	626,090	214,902
未払金	190,391	176,163
未払法人税等	10,744	4,271
未払費用	33,477	26,738
リース債務	740	742
課徴金引当金	-	12,000
その他	14,445	9,967
流動負債合計	968,117	519,815

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
固定負債		
リース債務	1,798	1,423
繰延税金負債	8,391	7,643
資産除去債務	51,949	52,148
訴訟損失引当金	19,120	-
固定負債合計	81,260	61,215
負債合計	1,049,377	581,031
純資産の部		
株主資本		
資本金	807,732	1,178,532
資本剰余金	673,827	1,044,627
利益剰余金	1,956,033	2,168,125
自己株式	1,851	1,851
株主資本合計	476,323	53,183
純資産合計	476,323	53,183
負債純資産合計	573,053	634,215

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	936,341	894,997
売上原価	685,819	653,299
売上総利益	250,521	241,698
販売費及び一般管理費	428,337	518,413
営業損失()	177,815	276,715
営業外収益		
受取利息	1,221	641
貸倒引当金戻入額	-	99,258
その他	1,995	4,743
営業外収益合計	3,216	104,642
営業外費用		
支払利息	9,960	21,685
資金調達費用	100,198	-
株式交付費	-	17,587
為替差損	107	-
その他	-	185
営業外費用合計	110,267	39,458
経常損失()	284,866	211,530
特別利益		
債務免除益	-	5,205
訴訟損失引当金戻入額	-	9,120
特別利益合計	-	14,326
特別損失		
損害賠償金	-	1,260
課徴金引当金繰入額	-	12,000
その他	26	-
特別損失合計	26	13,260
税金等調整前四半期純損失()	284,892	210,464
法人税、住民税及び事業税	420	2,375
法人税等調整額	-	748
法人税等合計	420	1,627
少数株主損益調整前四半期純損失()	284,471	212,092
四半期純損失()	284,471	212,092

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失()	284,471	212,092
その他の包括利益	-	-
四半期包括利益	284,471	212,092
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	284,471	212,092

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	284,892	210,464
減価償却費	17,620	18,738
のれん償却額	25,700	27,973
貸倒引当金の増減額(は減少)	4,744	99,258
課徴金引当金繰入額	-	12,000
債務免除益	-	5,205
訴訟損失引当金戻入額	-	9,120
受取利息及び受取配当金	1,221	641
支払利息	9,960	21,685
売上債権の増減額(は増加)	14,763	1,456
たな卸資産の増減額(は増加)	2,968	906
前払金の増減額(は増加)	253,540	-
未収消費税等の増減額(は増加)	7,957	9,012
長期未収入金の増減額(は増加)	237,975	-
差入保証金の増減額(は増加)	28,902	9,169
破産更生債権等の増減額(は増加)	160,002	97,658
仕入債務の増減額(は減少)	16,709	17,198
未払金の増減額(は減少)	45,455	23,154
未払費用の増減額(は減少)	-	1,663
その他	3,427	10,374
小計	432,929	174,556
利息及び配当金の受取額	425	260
利息の支払額	-	20,719
法人税等の支払額	17,034	10,489
営業活動によるキャッシュ・フロー	449,538	205,504
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	389	1,339
無形固定資産の取得による支出	55,000	1,900
貸付けによる支出	20,000	-
貸付金の回収による収入	10,040	6,600
事業譲受による支出	149,850	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	215,199	3,360
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	677,500	416,582
株式の発行による収入	-	706,162
新株予約権の発行による収入	-	17,850
財務活動によるキャッシュ・フロー	677,500	307,430
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	12,762	105,286
現金及び現金同等物の期首残高	19,864	18,656

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
現金及び現金同等物の四半期末残高	32,627	123,942

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第2四半期連結会計期間(自平成24年7月1日至平成24年9月30日)

当社グループは、営業活動によるキャッシュ・フローが数期に亘りマイナスであり、当第2四半期連結累計期間においても276,715千円の営業損失を計上し、営業活動によるキャッシュ・フローも205,504千円のマイナスとなっております。また、運転資金及び事業規模拡大のための投資資金を外部調達によって賄う体質となっており、一部の借入金等については期限が到来し、返済を猶予いただいております。これらにより、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当該状況を解消するため、遅延している借入金等の圧縮を図り、また、当社グループの中心事業である食品事業の業績の改善に努めてまいります。更には、キャッシュ・フローを当社グループに経常的にもたらし得る事業または資産の新規取得を行うべく、候補となる事業または資産を複数検討しております。検討にあたっては、既にキャッシュ・フローを生んでいる事業または資産、または現時点ではキャッシュ・フローを生んでいないものの、確実性の高い売上・利益が見込まれる等、早期にキャッシュ・フローを生むことがほぼ確実と見込まれる事業または資産を対象としております。

これらの施策を実行するためには、外部からの資金調達が必要であり、平成24年6月27日に行使時の払込価額総額720,000千円の第3回新株予約権を発行し、すべて行使され払込が完了しました。当社は、当該資金を、主に当社グループの借入金及び各種未払債務等の支払いに充当しました。今後も、新たな資金調達を推進し、財務体質を改善した上で、食品事業の中核である食品スーパー(ハミングステージ)において品揃の拡充による売上の拡大及び利益率の改善を図るための差入保証金の積み増しや販売促進等の前向きな投資を行い、黒字体質への転換に取り組んでまいります。更に、当社グループに経常的にキャッシュ・フローをもたらす資産または事業への投資を実施して、営業キャッシュ・フローをプラスに転じさせる計画であります。

しかしながら、当社グループの事業は国内の景気、消費動向等の影響を受け、また、資金調達は外部環境要因に依存する部分も大きく、更に、新規事業については期待通りの成果が出るか否かについてはリスクを伴い、実現できない可能性があります。従って、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

(5) セグメント情報等

前第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			計
	食品事業	環境事業	天然資源開発投資事業	
売上高				
外部顧客への売上高	916,974	13,614	5,752	936,341
セグメント間の内部売上高 又は振替高				
計	916,974	13,614	5,752	936,341
セグメント損失()	45,831	11,762	660	76,536

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	76,536
「その他」の区分の利益	
セグメント間取引消去	
全社費用(注)	101,279
棚卸資産の調整額	
四半期連結損益計算書の営業損失()	177,815

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第2四半期連結会計期間から、新規事業として開始した環境事業を新たな報告セグメントとして追加しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「食品事業」セグメントにおいて、飲食店舗2店舗の事業を譲り受けたため、のれんを57,084千円計上しております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

当社グループは、全セグメントに占める「食品事業」の割合が高く、開示情報としての重要性が乏しいことから、セグメント情報の記載を省略しております。

(報告セグメントの変更等に関する事項)

前連結会計年度まで、「食品事業」、「環境事業」、「天然資源開発投資事業」を報告セグメントとしてセグメント情報を開示しておりましたが、「食品事業」が拡大した結果、「食品事業」以外の事業の重要性が乏しくなったため、第1四半期連結累計期間よりセグメント情報の記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成24年6月27日付で、第三者割当による第3回新株予約権を400個発行し、すべて行使されました。この結果、当第2四半期連結累計期間において、資本金及び資本準備金が370,800千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において資本金が1,178,532千円、資本剰余金が1,044,627千円となっております。